

産業廃棄物処理計画書

平成24年 6月 日

愛知県知事 殿

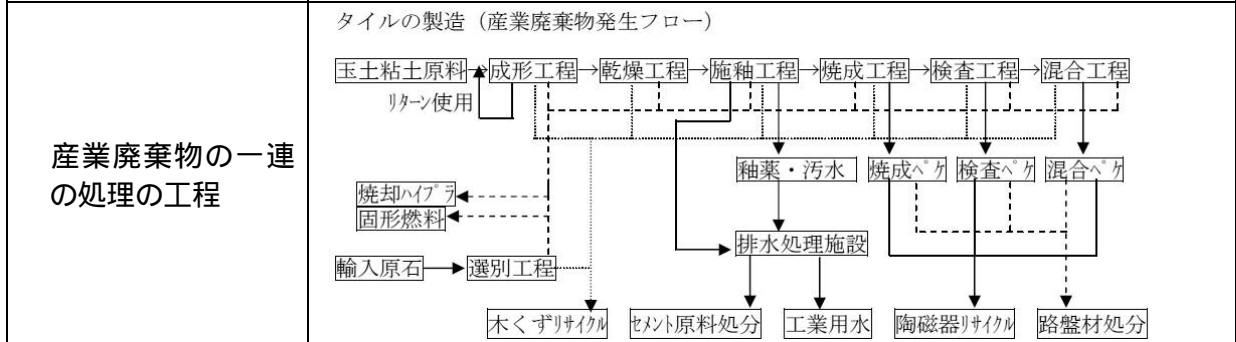
提出者 株式会社 L I X I L
 住 所 東京都江東区大島二丁目1番1号
 氏 名 代表取締役 藤森 義明
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)
 電話番号 03-6273-3608

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

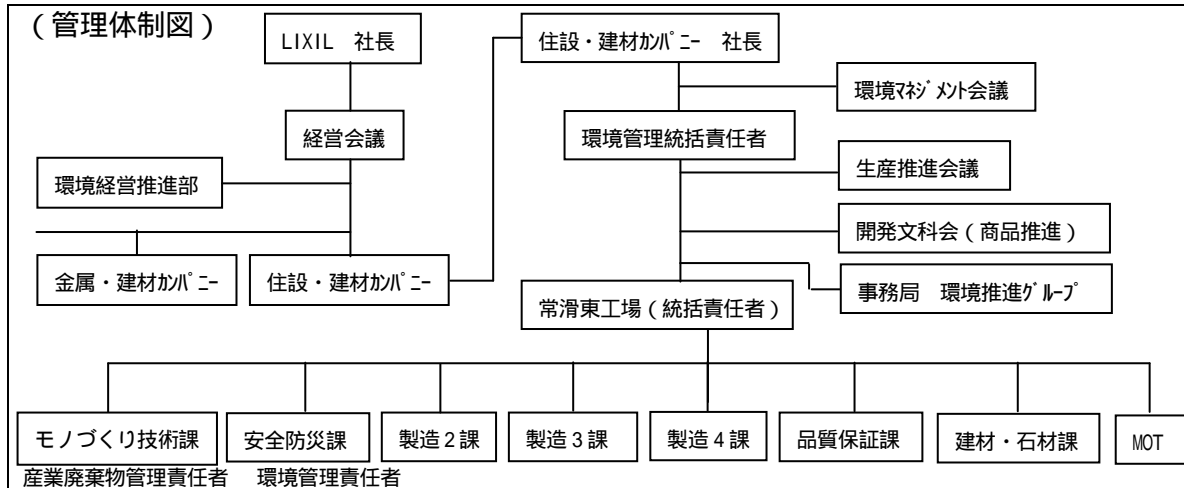
| | |
|---------|---|
| 事業場の名称 | 株式会社 L I X I L 常滑東工場 (TEL 0569-34-7926) |
| 事業場の所在地 | 愛知県常滑市奥栄町1-47 |
| 計画期間 | 平成24年4月1日～平成25年3月31日 |

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

| | |
|-------|------------------|
| 事業の種類 | E21 窯業・土石製品製造業 |
| 事業の規模 | 製造品出荷額 145,495万円 |
| 従業員数 | 68人 |



産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

| | | | | | | | |
|---|-----------------|-------|----------|-------|------|----------|--------|
| 現状 | 【前年度(平成23年度)実績】 | | | | | | |
| | 産業廃棄物の種類 | 汚泥 | 廃プラスチック | 木くず | 廃ガラス | 陶磁器くず | 混合物 |
| | 排出量 | 8.81t | 8.19161t | 6.96t | 0t | 1770.13t | 3.775t |
| (これまでに実施した取組) 分別の徹底・・・汚泥(清掃ホコリ)に含まれるゴミの分別 不要コンテナ処分・・・企業縮小で不要となったコンテナの固形燃料処理 廃パレットの明確化・・・修理再利用する廃木製パレットの基準を明確 過剰在庫の低減・・・企業縮小のための不要在庫の処分の実施 | | | | | | | |
| 計画 | 【目標】 | | | | | | |
| | 産業廃棄物の種類 | 汚泥 | 廃プラスチック | 木くず | 廃ガラス | 陶磁器くず | 混合物 |
| | 排出量 | 50t | 15t | 20t | 0.2t | 1000t | 10t |
| (今後実施する予定の取組) 不良率の改善・・・焼成温度カーブの見直し、乾燥切れ対策、粘土の含水率 過剰生産の防止・・・生産計画の見直し 製品の処分・・・廃棄製品(陶磁器くず)の計画処分 | | | | | | | |

産業廃棄物の分別に関する事項

| | |
|----|---|
| 現状 | (分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・清掃ホコリ(汚泥)に含まれるゴミの分別 ・焼却廃プラの分別をより強化して固形燃料(再利用)を増加する。 |
| 計画 | (今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・固形燃料行き廃棄物を種類ごとに分別する。(有価物) |

| 自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項 | | | | | | | |
|---|---|-----|---------|-----|------|-------|-----|
| 現状 | 【前年度（平成23年度）実績】 | | | | | | |
| | 産業廃棄物の種類 | 汚泥 | 廃プラスチック | 木くず | 廃ガラス | 陶磁器くず | 混合物 |
| | 自ら再生利用を行った産業廃棄物の量 | 0 t | 0 t | 0 t | 0 t | 0 t | 0 t |
| | （これまでに実施した取組） 固形燃料の増加・・・焼却廃プラを分別して、再利用できる固形燃料を増加する。 木パレットの修理・・・修理基準で分別し、修理パレットとして再利用する。 木パレットの返却・・・外部業者持込の運搬パレットの返却。 | | | | | | |
| 計画 | 【目標】 | | | | | | |
| | 産業廃棄物の種類 | 汚泥 | 廃プラスチック | 木くず | 廃ガラス | 陶磁器くず | 混合物 |
| | 自ら再生利用を行う産業廃棄物の量 | 0 t | 0 t | 0 t | 0 t | 0 t | 0 t |
| | （今後実施する予定の取組） ・焼却廃プラの分別をより強化して固形燃料（再利用）を増加する。 | | | | | | |
| 自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項 | | | | | | | |
| 現状 | 【前年度（平成23年度）実績】 | | | | | | |
| | 産業廃棄物の種類 | 汚泥 | 廃プラスチック | 木くず | 廃ガラス | 陶磁器くず | 混合物 |
| | 自ら熱回収を行った産業廃棄物の量 | 0 t | 0 t | 0 t | 0 t | 0 t | 0 t |
| | 自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量 | 0 t | 0 t | 0 t | 0 t | 0 t | 0 t |
| （これまでに実施した取組） 汚泥の脱水・・・脱水施設により減量を図る。（23年度の実績なし） | | | | | | | |
| 計画 | 【目標】 | | | | | | |
| | 産業廃棄物の種類 | 汚泥 | 廃プラスチック | 木くず | 廃ガラス | 陶磁器くず | 混合物 |
| | 自ら熱回収を行う産業廃棄物の量 | 0 t | 0 t | 0 t | 0 t | 0 t | 0 t |
| | 自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量 | 0 t | 0 t | 0 t | 0 t | 0 t | 0 t |
| （今後実施する予定の取組） 汚泥の脱水・・・脱水施設により減量を図る。 収集コンテナ・・・袋詰の充填率を高めて、収集回数を減少する。 輸入用木枠・・・木枠を崩して体積を減量し、運搬回数を減少する。 | | | | | | | |

(第4面)

| 自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項 | | | | | | | |
|---|---|----------|------------|--------|--------|------------|-----------|
| 現状 | 【前年度（平成23年度）実績】 | | | | | | |
| | 産業廃棄物の種類 | 汚泥 | 廃プラスチック | 木くず | 廃ガラス | 陶磁器くず | 混合物 |
| | 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量 | 0 t | 0 t | 0 t | 0 t | 0 t | 0 t |
| | （これまでに実施した取組） ・自社で行う埋立処分、及び海洋投入処分は、おこなっていない。 | | | | | | |
| 計画 | 【目標】 | | | | | | |
| | 産業廃棄物の種類 | 汚泥 | 廃プラスチック | 木くず | 廃ガラス | 陶磁器くず | 混合物 |
| | 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量 | 0 t | 0 t | 0 t | 0 t | 0 t | 0 t |
| | （今後実施する予定の取組） ・自社で行う埋立処分、及び海洋投入処分は、計画しない。 | | | | | | |
| 産業廃棄物の処理の委託に関する事項 | | | | | | | |
| 現状 | 【前年度（平成23年度）実績】 | | | | | | |
| | 産業廃棄物の種類 | 汚泥 | 廃プラスチック | 木くず | 廃ガラス | 陶磁器くず | 混合物 |
| | 全処理委託量 | 223.7 t | 23.46812 t | 8.46 t | 0.16 t | 1753.107 t | 22.1515 t |
| | 優良認定処理業者への処理委託量 | 0 t | 0 t | 0 t | 0 t | 0 t | 0 t |
| | 再生利用業者への処理委託量 | 222.19 t | 16.26812 t | 8.46 t | 0 t | 1753.107 t | 22.1515 t |
| | 認定熱回収業者への処理委託量 | 0 t | 0 t | 0 t | 0 t | 0 t | 0 t |
| | 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量 | 1.51 t | 7.2 t | 0 t | 0.16 t | 0 t | 0 t |
| （これまでに実施した取組） ・混合物（タイル接着貼り木板等）を選別後に再利用する。 ・付着タイルを路盤材として再利用する。 | | | | | | | |

(第5面)

| | | | | | | | |
|-----------|-----------------------------------|------|---------|-----|-------|--------|------|
| 計画 | 【目標】 | | | | | | |
| | 産業廃棄物の種類 | 汚泥 | 廃プラスチック | 木くず | 廃がら | 陶磁器くず | 混合物 |
| | 全処理委託量 | 50 t | 8 t | 5 t | 0.2 t | 1200 t | 10 t |
| | 優良認定処理業者への 処理委託量 | 0 t | 0 t | 0 t | 0 t | 0 t | 0 t |
| | 再生利用業者への 処理委託量 | 48 t | 2 t | 5 t | 0 t | 1200 t | 10 t |
| | 認定熱回収業者への 処理委託量 | 0 t | 0 t | 0 t | 0 t | 0 t | 0 t |
| | 認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量 | 2 t | 6 t | 0 t | 0.2 t | 0 t | 0 t |
| | (今後実施する予定の取組) ・ 混合物の委託量を減少させる。 | | | | | | |
| 事務処 理欄 | | | | | | | |

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) 欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) 欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) 欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「 」を記入すること。
- 7 欄は記入しないこと。